

## 1 研究テーマについて

## (1) 小中連携研究会の目的

小学校と中学校が連携を深め、9年間の学びの連続性を追求することを通して、小・中学校の円滑な接続及び、確かな学力の育成や生徒指導等の充実を図ることを目的とする。

## (2) 令和3年度の研究テーマ

### 中1ギャップの解消を図る小中連携の在り方 ～児童・生徒の不安感に寄り添った実践を通して～

## (3) 昨年度までの成果と課題

## ① 成果

- ・感染症対策に配慮し、生徒指導と特別支援教育に絞って分科会を実施したが、3校の職員が集まり、少しでも情報交換ができたことで共通実践を決めることができた。
- ・共通実践事項を含めて、各学校ごとで具体について協議したことで、各学校の児童・生徒の実態に応じた実践ができた。
- ・1学期末・2学期末に各学校の実践をまとめ、3校で共有したことで各学校の取り組みについて知ることができ、次学期への参考となった。

## ② 課題

- ・感染症対策で仕方がないが、授業参観ができないことで、授業の様子や児童の反応などについて把握できなかった。授業参観をする際は、Teamsなどを活用してもよいのではないか。
- ・学習指導に関する協議、共通実践ができなかった。特に小学校外国語と中学校英語についてはこれからますます連携が必要になってくるので、来年度は学習指導分科会を実施できないか。
- ・令和2年度の課題解決のために挙げられた、児童・生徒間の手紙での交流、小6児童から、中学校の先生への質問の機会の設定、中学校の先生から小6児童への説明の時間の設定)について、様々な事情で実施ができなかった。来年度1つでも実施してはどうか。

## (4) 令和4年度の研究テーマ

(1)～(3)により本年度もテーマを引き継ぐことにした。

### 中1ギャップの解消を図る小中連携の在り方 ～児童・生徒の不安感に寄り添った実践を通して～

もちろん、小学1年から中学3年までの9年間にわたる連携であることから、各学年の共通理解が前提であることはいうまでもないが、昨年度小中連携部会が行われた時期が中学1年生が入学してしばらくした時期だったこともあり、小学校から中学校への接続期であるこの時期に連携を図ることが、児童・生徒にとっても、また教員にとってもプラスになると考えられた。コロナ禍の今、今まで以上に児童・生徒は心理的に不安を抱えている児童・生徒も少なくない。

さらに、昨年度は、生徒指導部会・特別支援部会の2部会体制で行ったが、ICT教育が盛んになっていること、また、外国語活動の教科化や中学校での英語の教科書大幅改訂による共通理解の必要性があると考え、今年度は、「学習指導」をメインにおき、その中でも特に、①情報教育、②外国語(英語)教育、③学習のきまりの3つの観点から話し合いを持つことにした。なお、中学校では当初、授業参観を予定していたが、感染予防対策の点から、今回は見送ることになった。

(5) 研究内容

令和4年度の小中連携研修会は、次のような内容で実施することになった。

- ①第1回研究推進委員会にて運営計画立案，共通実践事項の設定
- ②各学校で令和3年度実践の方向性，内容の周知，現状と課題のとりまとめ
- ③小中連携研修会当日  
今年度は，感染症予防のため，参加者の人数を減らし全体会，情報交換会のみ実施とする。（情報交換会は昨年度要望があり今年度引き続き行う。）  
分科会に関して当初は，3つの分科会の予定であったが，今年度は「学習指導」中心に。
- ④その後，各学校で，共通実践の具体を協議し，実践する。
- ⑤学期末に各校の実践の報告を行う。（各学校→桜丘中）
- ⑥共通実践事項の実践とふりかえりを行い，3校で共有する。
- ⑦1年間のまとめ（報告を全員に行う）および次年度について方向性を決定。（次年度担当校が中心となって行う）

3 研究の視点と各学校の課題および具体策

5月の推進委員会後に各学校の現状や課題を出した。それをもとに6月に桜丘中学校を会場に小中連携研修会を実施し，各分科会で次の視点で話し合いを行い，共通実践事項を決定した。

(1) 研究の視点と共通実践事項

<p>学習指導 (本年度重点事項)</p>	<p>[研究の視点] 学習上の不安感に寄り添った指導の在り方 ----- [共通実践事項] ①外国語活動と英語・・・共通実践できることを推進する ②情報教育・・・ロイロノート活用を進める。 ③学習のきまり・・・共通実践できるところは各校で進んで行う（ただし発達段階に応じて配慮する。）</p>
---------------------------	--

(2) 各学校の現状と課題

( 桜丘西小 ) 学校

<p>学習指導上の不安感に寄り添った指導の在り方 &lt;小中が連携した学習指導の在り方&gt;</p>	<p>①外国語（英語）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度4年生でローマ字ノートを購入したが使い切れなかった（1年）・</li> <li>・身ぶり、手ぶりを加えて指導している（3年）</li> <li>・デジタル教科書の活用（3年）・授業開始時のあいさつ練習シートの作成。帰りの会のじゃんけんを「ロック・シーザー・ペーパー」でしている（3年）</li> <li>・AEAの先生には発音を中心に指導していただいている（4年）</li> <li>・見取りのためにワークシートや自己評価カードをファイリングしておく（5年）</li> <li>・発表の際、評価の観点も示し，動画に残し，本人にもロイロノートで送る（5年）</li> <li>・担任とAEAでTTでの授業展開が多い（6年）</li> <li>・5，6年は市販のテストを購入して実施。書く時間の確保が難しいが，ローマ字ノートを購入した（6年）</li> <li>・小学校での到達基準が分からない。中1入学時、どの程度の単語が書けるようになっていなく てはいけないのか等（6年）</li> </ul> <p>②情報教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度から3年生以上にタブレット配布。ロイロノートを授業で活用してきた。</li> <li>・令和4年度は低学年も使用可能になる予定。</li> <li>・低学年に本当に全員もらえるのか不安（1年）</li> <li>・ロイロノート活用中（理科・社会・総合で）（3年）</li> <li>・授業のまとめや自分の分ったことをロイロノートでまとめた（4年）</li> <li>・体育・図工で動画や写真に使った（4年）</li> <li>・理科で写真に撮って1年間の成長記録として活用（5年）</li> <li>・理科で小テストを作成し，小テストを作成し，ロイロノートで提出させる（5年）</li> <li>・調べたことを作品などロイロノートで提出させ，共有したり，評価に用いたりする（5年）</li> <li>・デジタル教科書を有効活用する（5年）</li> <li>・国語では自分の意見をノートに書き，写真に撮って先生にロイロノートで送ったり，算数の解答や個別のヒントをロイロノートで送ったりする（6年）</li> <li>・体育でラジオ体操の動画で動きを確認したり，自分たちのラジオ体操の動画を撮って練習したりした（6年）</li> <li>・昨年，ロイロノートでリコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏を家庭で撮影し先生に送っ</li> </ul>
--	---

た（6年）

- ・児童がアンケートをとる時にロイロノートを活用（6年）

### ③学習のきまり

- ・学年・学年部ごとの「家庭学習の手引き」をPTAで配布。児童にも掲示用として配布。
- ・授業中の「10個のきまり」を教室に掲示→教室移動などで掲示されていない学級もあるため検討が必要。
- ・授業の「始まりの時間に始める」に気をつけている（1年）
- ・静と動ののけじめをつける。静かになってから始業の号令を言う。友達が発表する時は口を閉じて発表する人を見る（聞く態度）（2年）
- ・次の授業の準備をしてから遊ぶ（3年）
- ・授業始めと終わりに「黙想」を実践中（3年）
- ・学用品で机の上に置く物を決めている（鉛筆2本、定規等）（4年）
- ・機会を捉えて何度も確認する（5年）
- ・始業1分前には着席チャイムかなったらしゃべらない。（6年）
- ・授業の始めと終わりは「姿勢・礼」（6年）
- ・自分たちでできる活動を始め（6年）

各校の課題（桜丘東小）学校

### ①外国語についてどのように学習を進めていますか。また、児童の実態はどうですか。課題もあればお聞かせください。（例：スペルなどは教えていないが、単語を書き写すような活動をしている。評価が難しく業者テストは取り入れていない等）

- ・教科書を活用して、授業を進めている。
- ・少字数ずつアルファベットの大文字や小文字の書き取りの練習をしている。
- ・担任の発音は自信がないが、AEAの先生の協力を得て、進めている。
- ・授業を進めるのが精いっぱい評価が難しい。"
- ・書く活動も取り入れているが、個人差が大きくなかなかはかどらない。
- ・ミニ先生になって教え合いをしている。
- ・簡単なあいさつを中心にAEAの先生と連携して授業を進めています。
- ・単語カードを使って語彙力を増やしています。
- ・中学年ですので書く活動はしていません。"
- ・チャンツや歌でリズムに乗って、楽しみながら外国語に慣れられるようにしている
- 児童もリズムに乗ると楽しいよう意欲的に取り組んでいる。デジタル教科書では、チャンツや歌のスピードが変えられるので、その単元で学習する表現に慣れてくるとチャンツや歌をスピードを上げてほしいと要求がある。
- ・スペルは教えてはいない。単語をなぞったり、ピクチャーディクショナリを活用しながら書いて練習している。毎回ではないが、デジタル教科書のフォニックスを活用して、読む練習をしている。
- ・業者テストは取り入れていない。単元の終わりに教科書に付属しているテストとみんなの前で学習した表現を使った発表で評価をしている。
- ・教師自身ももっと英語でいろいろな表現ができるようになり、子どもたちが表現したいことを表現できるような手立てがとれるようにしたい。今はAEAに補ってもらいながら進めている。"
- ・単元ごとに振り返りカードを作成し、単元の目標や本時の目標、振り返りを書くようにしていた。授業中に評価が難しい児童はそのカードを活用して、評価するようにした。
- 書く活動については、学習カードを作成して評価した。「書き写すこと」ができればよいという認識で評価していた。（AEAの先生は覚えさせようとしていたが）"
- 子どもたちと教師（もしくは子どもたち）で「単元のめあて（最後にする活動。例えば、クラスメートに向けて、自分のことを更に分かってもらえるように、英語で自己紹介をしようなど」を話し合っって決定し、目標達成に向けての学習計画を立てる
- 第7次で、ゴールの活動を行い、最後の時間は、国際理解とチャレンジクイズ（教科書に付属しているペーパーテスト）を行うようにしていた。評価は、このチャレンジクイズとゴールの活動の内容、学期1回のパフォーマンステスト（評価基準を事前に子どもたちに伝え共有していた）、日々の学習の姿（振り返りも含め）で見取っていた。
- また、ロイロノートで毎時間振り返りをさせて教師に提出されていた。振り返りながら、自分ができるようになったことやまだできないことを確認させ、次の学習に生かすようにしていた。

大きい課題が2つ。1つ目は、can do listの活用の仕方。昨年度リストを作って使用したが、内容が難しくなって自己評価をするのが難しかった。教育委員会から送られたきたものは、更に難しく、他の学校（中学校を含め）はどのようにしているのかを知りたい。

2つ目が「書く」指導。指導要領には「書き写す」ことができるようになる」とあるが、書き写すのも難しい子どもがいる。書くことを学習内容に入れると、時間がかかる。書くことに集中して、「読む」・「話す」がおそろかになっていた。  
(発表メモを作るのに時間がかかり、音声に慣れ親しむことができないことがあったなど) また、中学校で困っている子どももいると聞くので、中学での学習の様子などを聞いて、小学校での指導の参考にしたい。

**②情報教育について、どのように学習を進めていますか。また、児童の実態はどうですか。課題もあればお聞かせください。(例：ロイロノート週に1回程度取り入れて、取り入れ方が難しい。等)**

- ・担任自身はタブレット操作が未熟で、なかなか指導が難しい。
- ・子どもたちは楽しそうに取り組んでいる。ただただ担任の力量不足
- ・低学年なので頻りに活用するのは難しいが、自分でログインして写真を撮ったり感想を書いたりして、それを提出するところまで指導した。スムーズに活用していた
- ・かけ算九九練習では、よく利用した。
- ・ロイロノートを総合的な学習の時間を中心に進んで取り入れている。
- ・高学年はプログラミング学習が入っていたので、スクラッチというアプリで子どもたちと活動をさせました。
- ・1年生は、1人1台タブレットがまだないので、子どもたちはほとんど使っていません。担任はロイロノートを活用して授業を行っています。
- ・ロイロノートで漢字テストをしている。紙を配らなくてよいので手軽にできる。ただし、見届けの工夫が必要だと感じる。
- ・(児童)調べ学習では、キーワードを検索して調べることが多い。
- ・(教師)調べた情報を活用できるような指導の仕方を身につけさせたい。
- ・ロイロノートの思考ツールをもっと活用したい。"
- ・各教科で自分の作品を作成したものを写真で撮らせて送ることをよく使っていた。補教で入って写真を撮らせておけば、あとで担任も見ることができ、評価することができた。
- ・プリントで印刷する必要がない問題は、ロイロノートを使うと印刷の手間が省くことができた。なるべく使って、効果的な使い方を模索している。"
- ・昨年度からの積み重ねの結果で、ロイロノートやキーノートをとっても良く活用できる。学級全員がよく使うことができる。なので、授業でも積極的にロイロノートを活用している。
- ・去年は低学年の担任だったが、使えば使うほど、子どもたちは自らできることを増やし、活用できるようになっていくと感じた。大変だと思うが、教師が積極的に活用する活動を設定していくことが大切だと思う。また、評価の時などにも役立つので、教師もメリットはたくさんあると思う。"
- ・特別支援学級での情報教育について取り組まれていることがあれば知りたいです。

**③学習のきまりについて、児童の実態はどうですか。課題もあればお聞かせください。(例：特に聞く際の姿勢について指導をしている。友達の意見を聞く際もへそを向けるようにしている。等)**

- ・しっかり声を出して意見を述べ合えるように声掛けしている。声が小さく何を言っているのか何を伝えたいのか分からない子どもが多い。
- ・基本的なことを中心に指導している。(授業のはじまり・姿勢・鉛筆の握り方・発表の仕方・意見の聞き方・整理整頓)学校で指導するだけでは難しいこともあるので、家庭の協力が必要だと思う。
- ・教師や仲間が話をしたり発表したりする時は、へそをむけるようにしている。
- ・机の上で余計なもの(筆箱や鉛筆削りなど)を出させない。
- ・意見を言うときは、手を挙げて言わせている。(燦燦囁々発言させないようにしている。)
- ・姿勢が崩れがちなので、声をかけるようにしている。
- ・1・2年生は、学習のきまりを掲示するように今年度は共通理解できた。3年生以上は、今年度中に作成して、来年度以降の活用を目指している。
- ・先生方の学習指導観(学習のしつけ観)がばらばらなのが課題。学校で決められていきなり意識して指導している。そのほかの細かいきまりについては、個に応じた指導するようにしている。(聞く姿勢など)
- ・自分の課題は、どこまで守らせるかの判断が難しいこと。
- ・きまりを守ることができない(特性がある児童など)のか、甘えているのか、さぼっているのか・・・どこまで指導することがその子どものためになるのかいつも迷いながら、指導している。"
- ・話を聞く姿勢や時間のけじめがつくように指導を行っている。

①学習指導

(英語)

昨年度から、教科書が大きく変わりました。

【参考】教科書は・・・ニューホライズンを使用。

①語彙が1200→1800～2200。

【小学校の外国語科でふれた単語約700語】

※ちなみに使用教科書は633語

! 「この語彙をどのように指導していくか」→中一の担当教員でよく話題に。

②小学校で習っている「can」(中1の3学期)や「過去形」(中1の3学期)や

[want to～](中2)が中1の1学期に出てくる。また分量も多い。

! 「どうやって系統的に教えていくか」→悩むところ

→▲結果として学力の2極化、苦手な生徒へのフォロー不足が出てしまった。

▲小学校で「聞く・話す」ことができる生徒をどう「読む・書く」生徒につなげていくか・・・

○小学校からの自宅学習のついでに生徒がいること。

○曜日や月、数字や序数を言える生徒が多数。

○ALTの先生にどんどん英語で話そうとする生徒がいる。

(学期ごとにALTの先生とマンツーマンでパフォーマンステストを実施)

□ローマ字は中学校ではヘボン式をとっている

□授業の初めに天気や曜日、月名などを聞く活動を共同で行っては？

・・・小学校との連携を。

【英語・外国語以外】

(1年)支援が必要な生徒が多い(英語に限らず)そのために教科指導者だけでは手が回らない。

(2年)場合によっては小・中の乗り入れ授業など計画してもよいのではないのでしょうか。(英語以外でも)

(3年)学年が上がるつれ、音読などの声が小さくなる。授業中寝てしまう生徒もいる。(生活のリズムや意識)

提出物に関しては全部そろおうということがなかなかない(啓発する)

③ICT活用状況

(1年)ネット環境がもっと円滑であれば使えるが、つながったりつながらなかったり、

タイムラグがあったりすると授業が進められなくなるので使いづらい。

小学校はICTを活用している(進んでいる)と伺っている。

合同の研修会があってもよいのでは？

④学習のきまり

【1年】おおむね良好。各クラス数名ずつ姿勢がたもてなかったり、眠ってしまう生徒がいる。暑くなってくると、辛そうな生徒が増える。

【定期テストについて】→小学校との違い

1学期に実力テスト、期末テスト。2学期に実力テスト、中間テスト、期末テスト。3学期に学年末テストというテストがあります。

①実力テストは1日5教科。中間テストは2日間で5教科。期末テストは3日間で9教科を実施。【部活動も停止】

②当日は名簿順に着席し、筆記用具以外は机の中もからにする。→去年は机に物が入っており、開始時刻が遅れるというケースもあった。

③2分前には静かに着席し、黙想をしておく。

④質問があったり、物を落としたりしたら静かに手を挙げる。

→単元テストをする教科もあるが、全体的には定期テストがテストとなる。

⑤教科によっては、訂正ノート【プリント】を提出。また、再テストなども行う。

【その他】

・教科書類は原則持ち帰る。

・桜丘中学校は「チャイムがならない」ので自分たちで時間をみて行動する。

(3) 小中連携当日の話し合い (令和4年6月17日)

参加者 (桜丘西小 桜丘東小 桜丘中 )

令和4年度小中連携研修会 (桜丘西小・桜丘東小・桜丘中) 記録  
進行 桜丘中学校 記録 桜丘西小学校

研修主題

中1ギャップの解消を図る小中連携のあり方  
～児童・生徒の不安感に寄り添った実践を通して～

1 学習指導 15:10～

(1) 外国語活動と英語について

中 : 中学校では633語小学校で終了しているものとして中学校の学習をスタートするとなっている。

can, play, want to～はすでに既習済み(中1では4月, 6月に扱う)アルファベットはヘボン式(chi, tsu など)を扱っている。

小 : 小学校の国語では「 」(光村図書)を使うとき, 行をかえるとき, 次の行の一ますあけることになっているが。中学校ではあけていない。そのことに子どもたちはとまどっていないか・・・。

中 : ローマ字は「日本語」である。ローマ字が英語の邪魔をすることもある。

小 : ローマ字が入口。ないがしろにはできないが, ローマ字と英語の違いも教えている。

中 : 月名, 曜日名がよく(中1は)言える。ALTにもものおじせず, 話せている。現小5が中学校にあがる時に中学校の教科書がフィットすると言われている。

<高校入試問題の変更について>

読み物の陵が増加。自分の言葉で表現する問題も増加。正確な表記も求められている。文章が増えている(スピードを求められている。)

2 ICTの活用と現状

小 : ロイロノート, マイクロソフトチームズ, 学びポケット, たくさんのコンテンツが入ってきて係の先生は大変である。

西小 : ロイロノートの活用。1, 2年は7月以降。3年以上は活用。理科の写真を撮る。成長記録を付箋につける。児童がデータを提出することで担任が確認。

「学校楽しーと」もロイロノートを活用(入力不要)

多くの生徒がタッチペンを持っているが, ドリルや手書きの時活用している。

東小 : パソコン室のタブレットも使用。

心の問題で教室に入れられない子や濃厚接触者はチームスを使って授業に参加。

中 : 中学校は1人1台2, 3年生はあるWi-Fiが繋がらない家もある。

貸出Wi-Fiルーターは中学校はない。

小 : 総学校は無料で60個くらいルーターがある。Wi-Fiがつながるように昨年工事済。

小 : 生徒間共有は教師側からの指導が必要(ルールも必要)

一番近いアクセスポイントにアクセスする。電源が夜中に自動で入る設定になる。各自が登校後タブレットを保管庫から出すとアクセス集中を避けられる。

③ 学習のきまり

中 : 「6月中旬アンケートより」

□学校生活で困っていること

・給食時間が少ない。・小学校より10分短い。

・学習内容が難しい。・スピードが速いなど・・・。

中学校ではテストを受けるときにテスト三原則を張り出し確認する。

中学校ではシャープペンシルはOK。

中 : 自分からなかなか動けない。中学校では「2分前着席」「1分前黙想」

中1がなかなか次の行動に動かないところもある。

小 : 小学校では安全確保のために, 担任が引率して特別教室に連れていく。

小 : 小学校がどこまで中学校に寄せていくのか。

中1の1学期をどのように指導されているか。

中 : 中1と中3の違いは大きい。

2 < 16:10～16:35まで情報交換(個人) >

3 校長講話

- ・中学校ルーターは20個ない。
- ・タブレット使用不可の物がある。→リモート使用できていない。
- ・スマホは持たせない。買わせない。
- ・ジェンダーの対応も今後の課題。
- ・2, 3年生はあいさつはできているが, 1年生は今後できるようになる。
- ・中学校も小学校に寄せていく必要がある, 4月は5分給食時間を伸ばすなど。
- ・中学校なりの問題があるが, 小学校の情報はありがたい。
- ・小学校の指導はきめ細かい。もちろん指導内容の違いはあるが, 学ぶべきところは多い。
- ・子どもの実態をよい点, 課題をつかんで指導する必要がある。

小中連携研修会は、情報交換会も含めて有意義な会となり、下記のような形でのまとめとなった。

<今回の小中連携研修会より>

- ①『中1ギャップの解消』→各学校ごと発達段階に応じた対応の必要性  
徐々に中学校生活にならしていくことを意識。
- ② ICT活用について →小学校では毎日活用している。

研修会を受けて、各学校で実践し、そのまとめを2学期末に行った。

(4) 各校の取り組みと振り返り ( 桜丘東小 ) 学校

	学習指導上の不安感に寄り添った指導の在り方 <各学校の(共通)実践の具体と振り返り> ○:成果 ▲課題・改善策
①外国語活動と(英語)	○ 書く活動を多く取り入れ、四線に正確にアルファベットを書くことができるようになってきた。また、字面を見て、なんとなく単語を発音したり、単語を理解できるようになってきている。 ○ 歌やチャンツを多く取り入れ、音声に慣れ親しませている。おかげで既習事項もよく覚えている。 ▲ 歌やチャンツで取り上げているが、一部の児童や、視覚優位の児童は、一過性のものになることがある。 ▲ 書く活動が増えてくると、その分児童の負担になってくる。また、過去形や複数形、語順など、文法などについても触れなければならないような単元もあり、どこまで教えていいのか、教えなければいけないのか迷う。また、教えなければいけないことで負担も増える。
②情報教育	○ ナビマなどを取り入れ、適用問題に取り組みせることで習熟を図ることができた。 ○ 課題に応じて必要な情報を集めることができるようになってきている。情報活用の場面や、教科と関連させながら、メディア・リテラシーも少しずつ高まりつつある。 ▲ 集めた情報の信憑性や、著作権等を考慮した扱いには注意を要する。 ・ デジタルシティズンシップも高められるような指導を随時行っているためか、SNS等で大きなトラブルは起きていないが、今後も継続した指導を要する。
③学習のきまり	・ 学習の決まりは、生徒指導と合わせて全校統一したものを作成している。しかし、細かい内容については、やはり学級の実態や、教師の個性もあるため、柔軟に対応することも必要だということを教師各々が感じ取ってきている。また、教師の力量や知識によっても、解釈や取り組みが異なることがある。お互いに共通理解も必要だが、児童が理解し、納得して生活できる環境づくりが必要。 ・ ”学級マルチリトメント”という言葉(造語)がある。児童が生き生きと活動できるように、我々教師が日々学習、児童理解を進めていく必要があるのではないかと感じる

	学習指導上の不安感に寄り添った指導の在り方 ＜各学校の（共通）実践の具体と振り返り＞ ○：成果 ▲課題・改善策
①外国語活動と（英語）	<p>○デジタル教科書を活用して、会話を曲にのせて歌うことで会話にも少しずつ慣れてきた。ヒヤリングが大分できるようになってきている。</p> <p>○AEAの先生と担任とで協力して授業を進めることで、内容の難しくなっている外国語を嫌いにしないで進められているのではないかと思う。</p> <p>▲毎時間書く時間もとるようにしているが、個人差が大きくとも時間がかかる子もいる。</p> <p>▲ペアで英会話などには伸び伸びと発表できても、みんなの前で発表となると積極的になれない子がいる。</p>
②情報教育	<p>○ロイロノートの活用により、国語の学習では文字を書く活動とタブレットを使ってまとめる活動を両方取り入れた。それぞれの活動の良さを生かすことができた。（6年研究授業）</p> <p>○総合ではプレゼンテーション形式に調べたことをまとめて、発表することができた。文字入力、写真やデータの取り込みなどには慣れてきている。</p> <p>○「みんなで遊ぶ日のアンケート」等、みんなの意見を取り入れたりまとめたりする活動に子どもたちで活用できている。</p> <p>（生徒間通信の許可は担任）。生徒指導のアンケート等もロイロノート活用で集計・実態把握がスピード化された。</p> <p>○社会科のデジタル教科書の動画の活用により理解が深まったように感じる。</p> <p>▲タブレットは担任がいる時、休み時間は使わない等のキアリを徹底しないと、勝手にいろいろなアプリを使い出すので継続して指導が必要である。</p>
③学習のきまり	<p>○学習中は、課題に向けて真剣に取り組もうとしていた。</p> <p>▲休み時間に次の授業の準備はだいたいできているが、2分前着席が徹底していない。3学期も継続して指導したい。</p> <p>▲2学期が終わりに近づき、小学校生活が少なくなっていることへの寂しさとともに、進学不安や期待が出てきている。</p>

各校の取り組みと振り返り (桜丘中) 学校

	学習指導上の不安感に寄り添った指導の在り方 ＜各学校の（共通）実践の具体と振り返り＞ ○：成果 ▲課題・改善策
①外国語活動と（英語）	<p>○各小学校の状況を踏まえ、英語指導をこころがけるとともに、次年度以降はフォニックスやアルファベットにかける時間を減らし、教科指導を強化するように英語部会で話し合いをもった。（小学校で単語の力をつけてほしい。）</p> <p>○中1英語担当者がチームズで音読テストを行うなど英語教育への興味を持たせている。</p> <p>▲中2、中3になると目標などが難しくなるため、小学校との教科連携は中1との連携にならざるを得なかった。</p>
②情報教育	<p>○小中連携研修会をもとに校内研修の中のテーマ研修をICT教育に絞って、夏休みに3回ロイロノートやチームズなどの研修を行い、意識を図った。</p> <p>○情報担当教諭を中心に整備が進められ、多くの生徒たちが様々な教科や行事、また、総合的な学習（FT）の時間にタブレットを活用する時間が増えた。</p> <p>○ロイロノートに長けた先生方が転入され、少しずつ広まってきた。</p> <p>中学2年生英語では、ロイロノートを週4時間のうち2時間程度、中学2年生国語では週3時間程度ロイロノートを活用し指導しており、生徒たちが、楽しんで学習する様子がみられるようになった。</p>



	<p>▲研修まで授業で活用するまでの教員側の準備や自信がもっと必要である。</p> <p>▲生徒たちが自らアンケートを使うなどの発展した使い方が次年度にかけて必要と感じられる。</p> <p>▲情報モラルや情報機器の使い方の周知徹底が必要である。</p>
③学習のきまり	<p>○小中連携研修会で話し合われたことで、1年部では、1学期を中心に配慮し、2分前着席、中学校へのスムーズな接続に心がけた。</p> <p>▲本校の校訓である「自主の鐘」を2、3年生が、もっとお手本になるように時間や学習面での行動で生徒会や専門部が中心となり模範を示していけるようにすることも必要である。</p>

#### 4 令和4年度の成果と課題

##### (1) 成果

- ・3校の職員が集まり、少しでも情報交換ができたことで共通実践を決めることができた。特に、中学校は1年職員が全員参加したことにより、小学校の先生たちと直接話をすることができた。(情報交換会では生徒指導や特別支援教育の観点でも話し合われた)座席を工夫し各校同士で意見を出しやすいようにした。
- ・今年度は全体会で学習指導・情報教育・外国語指導(英語)と3つの観点に絞り、協議、意見交換をすることができた。
- ・1学期・2学期末に各学校の実践をまとめ、3校で共有したことで各学校の取り組みについて知ることができ、次学期への参考となった。
- ・小中連携を通して、小学校の研修会へ中学校教員が参加し、また、小学校間でもICTを通して連携を継続することができた。

##### (2) 課題

- ・授業参観を予定していたが、感染症対策で急遽話し合いとなった。授業の様子を実際参観することができなかつた。貴重な機会なので、次年度以降は実施をする方向で考えていきたい。(Teamsなどを活用してもよいのではないか。)
- ・ICTの活用の小中の差をなるべく少なくするため情報教育の連携を重視。
- ・次年度は、学習指導・生徒指導・特別支援の部会を設けることが必要では。
- ・令和2年度の課題解決のために挙げられた、児童・生徒間の手紙での交流、小6児童から、中学校の先生への質問の機会の設定、中学校の先生から小6児童への説明の時間の設定)について、様々な事情で実施ができなかつた。来年度1つでも実施してはどうか。

#### 5 来年度(令和5年度)の小中連携研修会について

##### (1) 研究計画

期 日	会 名	場 所	内 容
5月2日(火)	第1回小中連携研修推進委員会	桜丘西小	小中連携研修会の運営計画立案
6月23日(金)	小中連携研修会	桜丘西小	授業参観および研究協議
8月1日(火)	第2回小中連携研修推進委員会	桜丘西小	振り返り・共通実践事項検討
1月18日(火)	中学校入学説明会	桜丘中	児童・保護者への入学説明会
1月23日(火)	第3回小中連携研修推進委員会	桜丘西小	まとめ、次年度日程、テーマ検討など
3月22日(金)	小中連絡会	桜丘中	クラス編成引き継ぎなど

##### (2) 研究主題(案)

中1ギャップの解消を図る小中連携の在り方  
～児童・生徒の不安感に寄り添った実践を通して～

(ポイント) 接続期の時期から中1の1学期が勝負。実のある研修に。情報交換会はありがたい。

(3) 研究の視点(案)

学習指導	学習上の不安感に寄り添った指導の在り方
生活指導	学校生活の不安感に寄り添った指導の在り方
特別支援教育	特別な支援を必要とする児童・生徒の不安感に寄り添った指導の在り方

6 引き継ぎ事項

今年度も、コロナ感染症予防対策のため、縮小した形での小中連携研修会となった。しかしながら、重点的に項目を決めて、小中学校ともに活発な意見交換や情報交換がなされ、また、この小中連携部会を通して、各校ともに研修等で実践されたこととなり、そのことは児童・生徒へ何らかの形でプラスになったのではないかと思われる。やはり、せっかくの機会であるので、3校に実のある連携を目指していきたい。以下は次年度に向けての引き継ぎ事項とする。

- ア 研究主題、研究の視点等は、来年度の第1回研究推進委員会で最終的に決定する。
- イ 桜丘西小学校を会場とした授業参観を含めた小中連携研修会を実施する予定である。
- ウ 感染症の状況等を踏まえて Teams の活用など、実施方法を検討する。
- エ 学習指導・生徒指導・特別支援教育の3つの分科会で協議する。
- オ 会場校、分科会の世話役は次のように輪番で行う。

	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11
当番校	桜丘西小	桜丘東小	桜丘中	桜丘西小	桜丘東小	桜丘中	桜丘西小
学習指導	桜丘西小	桜丘東小	桜丘中	桜丘西小	桜丘東小	桜丘中	桜丘西小
生徒指導	桜丘東小	桜丘中	桜丘西小	桜丘東小	桜丘中	桜丘西小	桜丘東小
特別支援教育	桜丘中	桜丘西小	桜丘東小	桜丘中	桜丘西小	桜丘東小	桜丘中

